



ヤマハ PAS (PZ26・PZ24) ハンドブック(取扱説明書)

PAS

このたびは、ヤマハ< P A S >をお求めいただきまして、まことにありがとうございました。
ヤマハ< P A S >はパワーアシストシステムを搭載している自転車です。自転車に乗れる方なら手軽に乗ることができます。

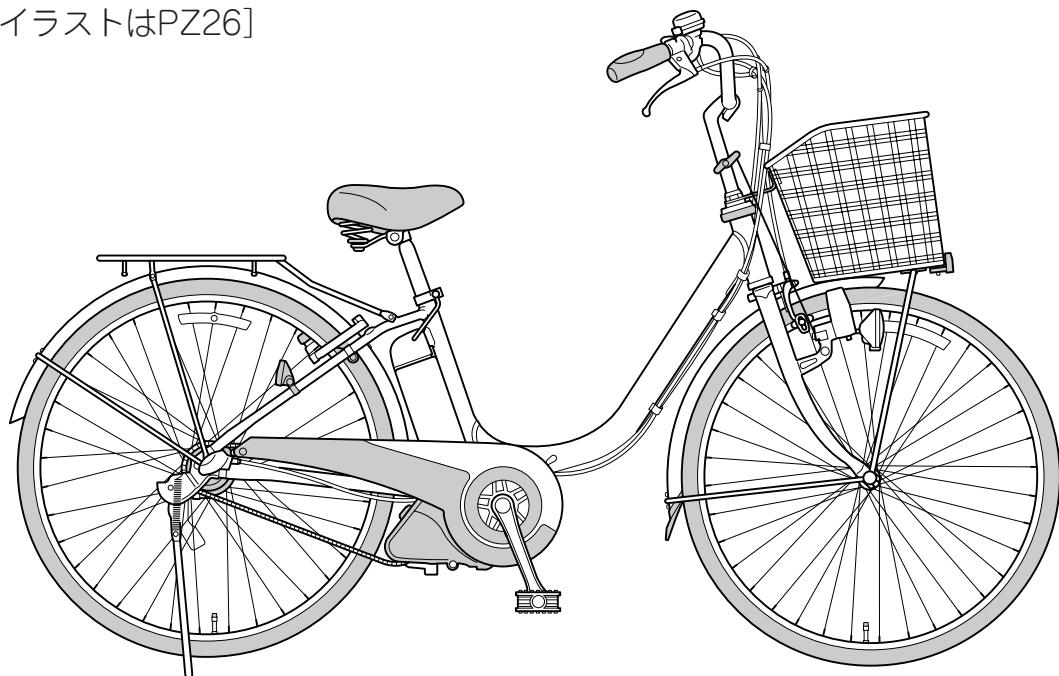
しかし、自転車とは異なる点もございますので、お乗りいただく前に必ず、本書をお読みいただき、安全かつ軽快にご使用ください。

お子様がお使いになる場合は、保護者の方が本書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください。

お願い

- 本書と保証書／点検・整備の記録は、紛失しないよう大切に保管し、ご活用ください。
- お客様登録票（盗難保険カード）はがきは、購入後7日以内に投函してください。
- PASを他の人にお譲りになる場合は、取扱説明書も一緒にお渡しください。
- 保証書は「販売店名、お買い上げ日」などの記入を確かめて販売店からお受け取りください。記入がもれている場合は、販売店にご請求ください。

[イラストはPZ26]



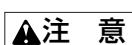
本書では、正しい取り扱い及び点検・整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで区分しています。



安全にかかる注意情報を意味しています。



取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示しています。



取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示しています。



正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示しています。



安全上してはいけない「禁止」内容を意味しています。

この自転車は一般用として設計されています。新聞配達などの業務用としてご使用にならないようお願いします。

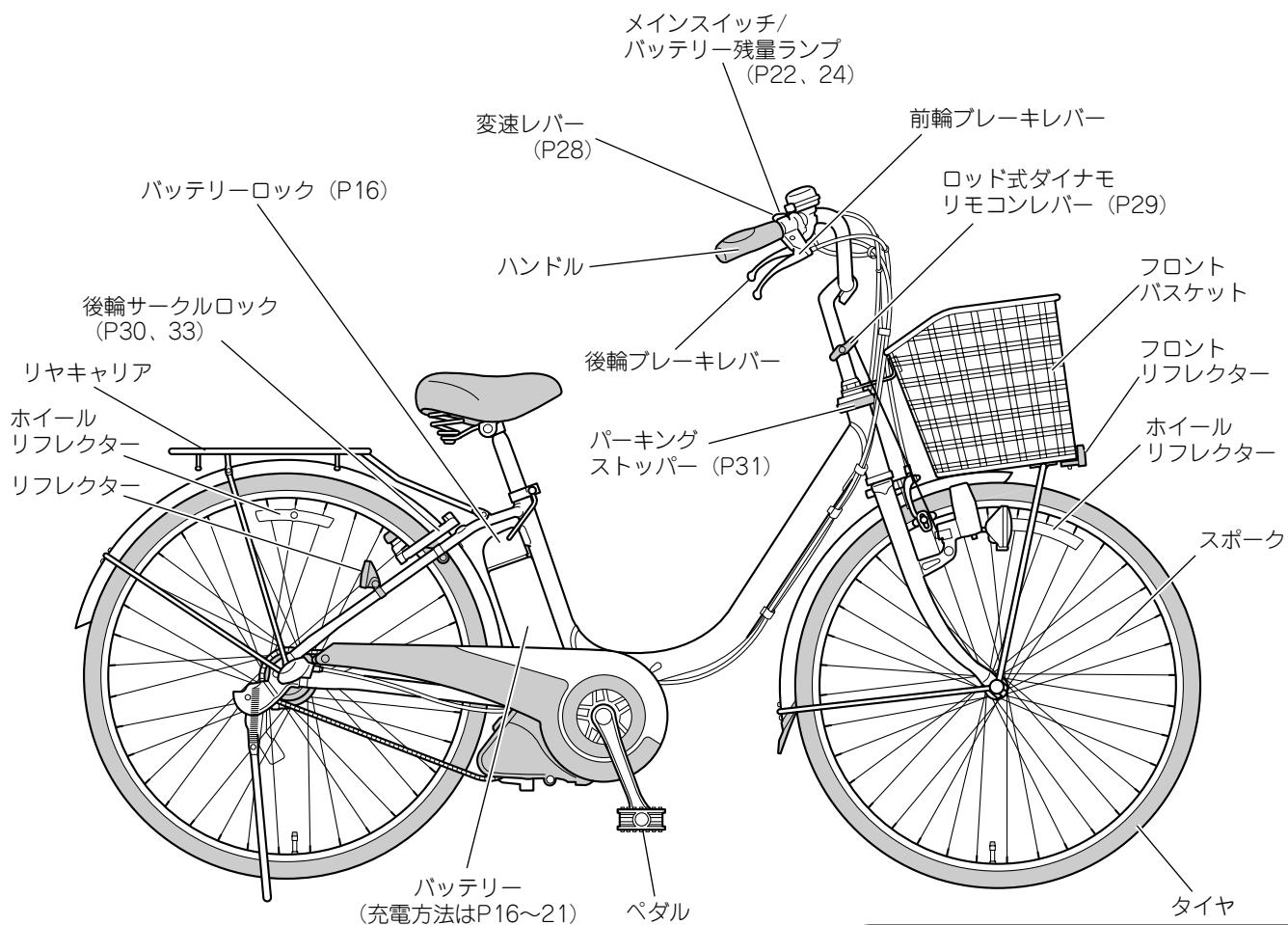
仕様変更などによりイラストや内容が一部実車と異なる場合があります。

もくじ

各部の名称	2	さあ乗りましょう！	27
安全上のご注意	3	変速レバーの使いかた	28
安全運転の手引き	8	ロッド式ダイナモリモコンレバーの 使いかた	29
バッテリーを充電する前に	10	荷物の積載	30
バッテリーの知識	10	駐輪のしかた	30
バッテリー充電の注意	11	パーキングストッパーの使いかた	31
バッテリー取り扱いの注意	13	お手入れのしかた	32
充電する場所	15	保管のしかた	33
バッテリーを充電しましょう！	16	定期点検／普通自転車点検整備済み	
バッテリーを取り外して充電する場合	16	TSマークについて	34
バッテリーを取り付けたまま充電する場合	18	保証制度／基準適合標章 (TSマーク)	34
充電のしかた	19	BAAマークについて	35
充電時間	21	盗難保険について	36
PASの乗りかた	22	もしもこんなときは	38
エコノミーモードと標準モード	22	パワーアシストシステム	38
1充電あたりの走行距離	23	PAS専用充電器	39
バッテリー残量の目安	24	製品仕様	裏表紙
乗車前点検	25		

各部の名称

[イラストはPZ26]



裏表紙の【キー番号記入欄】にキー番号を控えておいてください。
万一、キーを紛失した場合、番号を控えておくことにより、キーの作成が可能です。
キーの作成については、ご購入店にご相談ください。(有料)

安全上のご注意

▲警 告

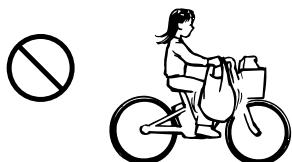
二人乗りはしない

(幼児を子供乗せ機を使用して乗せる場合を除きます。)



転倒や落車などによるけがのおそれがあります。

手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつないだりしない



荷物やひもが車輪に巻き込まれたり、バランスを崩して転倒し、けがのおそれがあります。

- 荷物は、バスケットやリヤキャリアに積んでください。

飲酒時やかぜ薬など服用時、および体調が優れないときは乗らない



運動機能が低下し、衝突などによるけがのおそれがあります。

滑りやすい靴や、かかとの高い靴などをはいて乗らない



足がペダルから外れ、転倒によるけがのおそれがあります。

手放しや傘をさしながらの運転はしない



バランスがとりにくくなり、転倒によるけがのおそれがあります。

- 合図する時以外は両手でしっかりハンドルを握って運転してください。

乱暴な乗りかたはしない

(アクロバット的な乗りかたや急発進、急旋回など)



転倒や落車などによるけがのおそれがあります。

けんけん乗りをしない



片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかた(けんけん乗り)は、転倒や接触事故によるけがのおそれがあります。

車輪やチェーンに巻き込まれやすい服装は避ける

(長いスカートや長いマフラーなど)



転倒によるけがのおそれがあります。

- すそが広がっているズボンはバンドやゴムで留めるようにしてください。

⚠ 警 告

**視界の悪いときは、無灯で乗らない
(夜間や霧など)**



見通しが悪くなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。

- 必ず前照灯を点灯してください。もし前照灯がつかないときは、押して歩いてください。

積載条件から外れる荷物を積まない



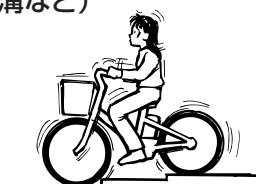
バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

カーブで曲がる側のペダルを下げる



ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。

**凹凸の激しいところを走らない
(歩道の段差や、溝など)**



フレームや車輪、またはドライブユニットなどが損傷し、転倒によるけがのおそれがあります。

- 自転車から降りて、押して歩いてください。

**滑りやすいところでは乗らない
(積雪や凍結した道、濡れている鉄板やマンホール、ぬかるみなど)**



スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。

- 自転車から降りて、押して歩いてください。

異常があるときは乗らない



事故や転倒によるけがのおそれがあります。

- 異常を発見したら販売店にご相談ください。

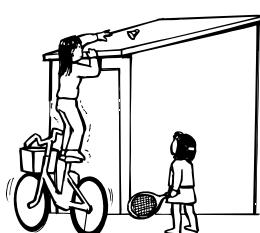
片側だけのブレーキ操作はしない



スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。

- ブレーキは必ず前後ともにかけてください。

踏み台代わりなど走行以外に使わない



転倒によるけがのおそれがあります。

⚠ 警 告

自分で改造しない



部品が破損したり、外れたりして転倒によるけがのおそれがあります。

- 修理や、パーツの取り付けは販売店にご相談ください。

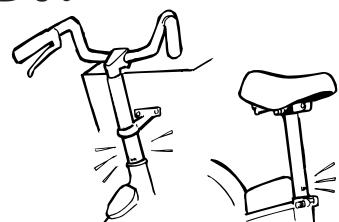
車輪の脱着やサドルの調整後、締め付けを確認せずに乗らない



車輪やサドルが外れて転倒によるけがのおそれがあります。

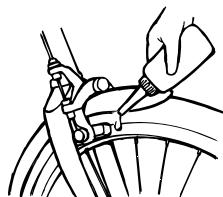
- 必ず乗る前に点検してください。

サドルやハンドルは引き上げ限界線が見える状態で乗らない



サドルやハンドルが折れて衝突や転倒を招き、けがのおそれがあります。

ブレーキの制動面やタイヤ、リムに注油しない



ブレーキが効かなくなり、衝突によるけがのおそれがあります。

車輪・チェーンなどの回転部に手や足、ものなどを近づけない また、子供を近づけさせない



車輪やチェーンに巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

幼児は子供乗せ機を使用せずに乗せない



安定が悪くなり転倒によるけがのおそれがあります。

(一部市販品で取り付けられない場合がありますので、ご購入前に必ず販売店にご相談ください。)

- ご使用に際しては、確実に子供乗せ機が取り付けられているか（特に取り付け金具やボルトなど）を必ず確認してください。
- 使用中は、幼児の足や手が可動部にはさまれないよう注意してください。
- 後部子供乗せ機を使用する場合は、リヤキャリアを必ずご使用ください。あわせて、ドレスグードの装着をおすすめします。

幼児を子供乗せ機に乗せたまま放置しない



安定が悪くなり転倒によるけがのおそれがあります。

⚠ 警 告

パワーアシストシステム構成部品の分解や注油をしない



故障や誤作動による事故やけがのおそれがあります。

- パワーアシストシステムのパワーユニット部やモーター部、コントローラー、バッテリーなどは大変精密な部品で構成されていますので、分解したり、注油したりしないでください。
- 「故障したかな」と思ったときは、「もしもこんなときは…」(P38) を参照の上、販売店にご相談ください。

アクセサリーや交換部品は純正部品以外は使用しない



部品の破損などによりけがのおそれがあります。

- タイヤなどの消耗品やアクセサリーなどの部品は、販売店にご相談の上、必ず純正部品を指定して取り付けてください。それ以外の市販品を使用しますと事故や故障の原因になることがあります。
- また、保証の適用が受けられない場合があります。

▲注意

■乗る前に必ず乗車前点検をする

- 乗る前には必ず点検を行ってください。
(P25~26)
- 不明な点がありましたら販売店にご相談ください。

■乗る練習は安全な場所で行う

- 空き地や公園など安全な場所で良く練習し、パワーアシストの特徴に充分慣れてから一般道路でお乗りください。
- 慣れるまでは「エコ」でスタートしましょう。

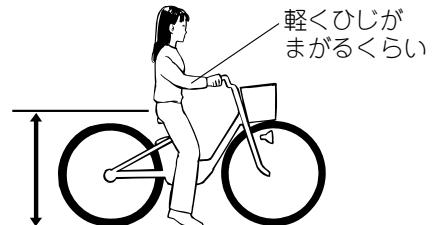


■正しい姿勢で走行できるよう調整する。

お買い求めの販売店でサドルやハンドルの位置などを自分に合った高さに調整してもらいましょう。

適応身長
143cm以上

両足のつまさ
きが地面につ
くくらいのサ
ドルの高さ



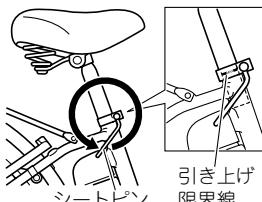
■サドルの高さ調整

シートピンのレバーを矢印の方向に回し、サドルの高さを調節します。このとき、引き上げ限界線が見えない範囲で上下に調整します。

調整後はシートピンのレバーを確実に締めつけてください。

シートピン締め付け後、サドルが確実に固定されていることを確認してください。

サドルの高さ調整は運転中に行わないでください。



最も高くした場合で
も、引き上げ限界線
がフレームから、は
みださないようにし
てください。

安全運転の手引き

▲警告

PASをより快適に、そして安全に乗るため交通ルールを守って安全運転を心がけましょう。安全に運転するため以下のようなことに気をつけてください。
守らないと衝突や転倒などによるけがのおそれがあります。

■さあ、発進しましょう

- 走りだすときは、道路の左側から発進します。
- 周囲の安全確認を忘れずに。
- 後方から来る車にスタートの合図をします。
- スタートの合図のしかた
右手を地面と平行に真横にだします。



■道路の左側を走りましょう

自転車は左側通行が原則です。また、歩道のない道路では、つねに歩行者優先を心がけましょう。



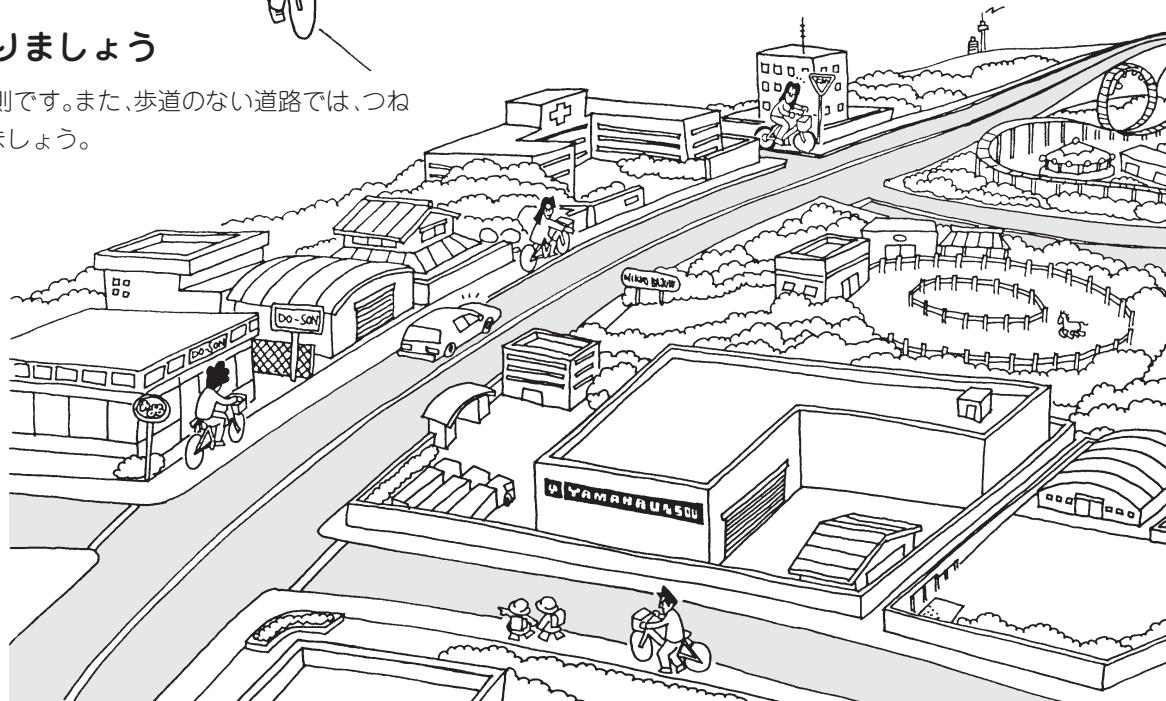
自転車横断帯の標識



一時停止



自転車歩道通行可



■の標識・表示があるところでは…

歩道の中央から車道よりも、または標識や表示に指定されているところを通行することができます。
ただし、歩行者の迷惑にならないようにつねに周囲の状況に気を配り、場合によっては一時停止をしましょう。

■歩道は歩行者優先です

自転車の通行が許可されている歩道でも、歩行者の迷惑となる場合は、いったんPASから降りて押して歩くようにしましょう。



■信号機のない交差点では…

信号機のない、見通しの悪い交差点では、周囲の安全を充分に確かめてから進みます。

- 曲がるときは合図をしましょう。右折・左折とも、30mくらい手前から合図をだします。
- 右折／右手を地面と平行に真横にだします。
- 左折／右手を地面と平行に真横にだし、さらにひじを直角に上に曲げます。
- 停止／右手を斜め下にだします。

■の標識があるところでは…

必ずいったん停車し、周囲の安全を確認してから走りだしましょう。



■下り坂でのスピードのだしうぎには注意しましょう

スピードのだしうぎや急ブレーキは転倒や追突のもと。特に下り坂や雨の日、ぬれた路面などはすべりやすいので、ブレーキ操作に注意しましょう。

また、カーブや交差点などではスピードを充分に落とし、ゆとりあるブレーキ操作で安全運転を心がけましょう。

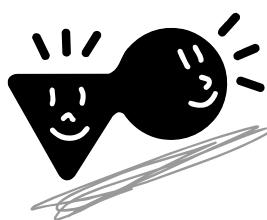


- ブレーキをかけるときは…

ブレーキは、後ろブレーキ(左レバー)を早めに必ず前後ともにかけます。片側だけのブレーキ操作は転倒や横すべりの原因になります。

- 長い下り坂でのブレーキ操作は…

長い下り坂でブレーキをかけっぱなしにすると、ブレーキシューが加熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。ブレーキは小刻みにかけましょう。



自転車のルールを守って、安全走行

- 止まって確認、らくらく発進
- ライトをつけて、らくらく走行

■踏切りでは…

いったんPASから降りましょう。

踏切りをわたるときは、踏切りの手前で停車し、自転車の左側に降りてください。

遮断機が上がっている場合も、安全を確認してからわたるよう心がけましょう。



子どものとびだしには、 充分に注意しましょう

近くの公園や学校があるような道路では、とくに子どものとびだしに注意しましょう。

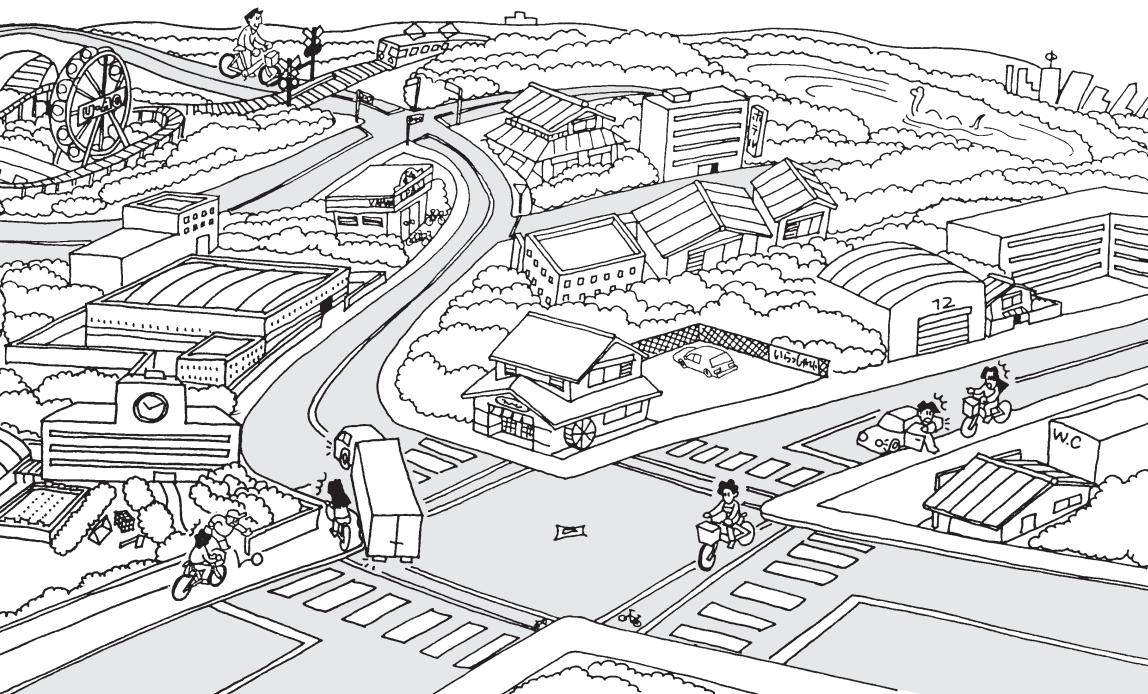
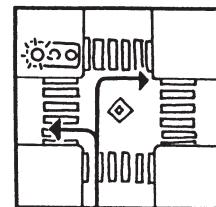


■信号機のある交差点では…

信号をしっかり守り、横断しましょう。

- 正面の信号が青のとき、直進、左折ができます。
- 右折するときは、2段階右折をしてください。
- 2段階右折のしかた

正面の信号が青になったら、いったん向こう側までわたり、止まります。次に右側の信号が青になってから進みます。



横断歩道



自転車専用



自転車通行止



通行止



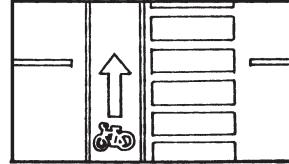
交差点での巻き込み注意!!

交差点はいちばん事故が起こりやすいところです。特に左折時の大型車による巻き込み事故には充分に注意しましょう。左折時は周囲の安全を確かめてから曲がるようにしましょう。



自転車横断帯があるところでは…

自転車横断帯の表示がある横断帯ではそこを通行しなければなりません。



駐停車している自動車の横を通過するときは慎重に…

駐停車している自動車や、渋滞などで止まっている自動車は、急にドアが開くおそれがあります。あらかじめスピードを充分に落としてから通過するようにしましょう。



横断歩道をわたるときは一時停止を忘れずに!

横断歩道の手前でいったん停車し、安全を確認してから進みましょう。

バッテリーを充電する前に

バッテリーの知識

●バッテリーの特徴

- バッテリーは暑さ、寒さが苦手です。
バッテリーは化学反応を利用して、充電と放電を行います。この化学反応は、温度に大きく影響される特徴があり、特に日本のように夏は暑く、冬は寒い環境はバッテリーの性能を大きく左右します。
- 冬期の性能低下
約10℃以下の寒い環境では、バッテリー出力容量が少なくなり走行距離が短くなりますが、気温が暖かくなると回復します。
- 夏期（バッテリー温度の高い時）の取り扱い
走行直後の充電、炎天下やストーブのそばなど熱い所での充電はさけてください。寿命や走行距離が短くなります。
- バッテリーは、使用していくなくても自然に放電します。長期間乗らない場合は、バッテリー残量ランプが1灯～2灯の状態で保管されることをお奨めいたします。使用される前日に充電してお使いください。

●PASに使われているニッケル水素バッテリーとは…

PASに使われているバッテリーは高性能電池の一種で、充電と放電を繰り返し何度も使用できるとてもすぐれたバッテリーです。また、大きな電流が最後まで引き出せます。

●バッテリーのリサイクルにご協力ください。

ニッケル水素バッテリーはリサイクル可能なバッテリーです。寿命がきて使用済みになったバッテリーは、販売店で回収リサイクルしてもらってください。小さな積み重ねが地球の限られた資源を有効活用します。



リサイクルマーク

●ニッケル水素バッテリーの「メモリー効果」について

ニッケル水素バッテリーは、つぎ足し充電のように満充電後の放電量が少ない状態で充電・放電を何度も繰り返すと、バッテリー残量が見掛け上低下する「メモリー効果」と言われる現象が起こります。

この場合でも、専用の充電器でリフレッシュ充電を行うことでバッテリーを回復させることができます。

●高性能なニッケル水素バッテリーでも、充・放電を繰り返すと次第に容量が少なくなり、バッテリーの交換が必要になります。これはバッテリーの特性によるもので、故障ではありません。

バッテリーには寿命があります。

バッテリーの寿命は使用状況や気温・充電のしかたにより異なりますが、リフレッシュ充電しても1回の充電で走行できる距離が著しく短くなったらバッテリーの交換時期です。

バッテリーの寿命の目安は、以下のとおりです。

● 繰り返し充・放電の回数

- 300～400回（ただし、25℃の条件で、一般路走行パターンにて使用した場合）
- 500回（ただし、25℃の条件で、平坦路のみにて使用した場合）

● 使用期間

ご購入後約2年間

ただし、上記の寿命の目安は保証値ではありません。バッテリーの寿命は、保存状態、充電環境温度、走行状態、気温などで異なり、目安より寿命が短くなることがあります。

バッテリーの交換は必ず販売店で…。（有料）

バッテリー充電の注意

必ずお守りください

⚠ 警 告

PAS専用充電器は幼児やペットがいたずらするところには設置しない。

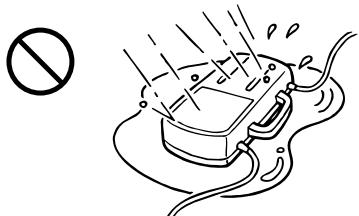


PAS専用充電器の電源プラグや充電プラグをぬれた手で取り扱わない。



感電するおそれがあり、大変危険です。

PAS専用充電器を水没させたり、雨中に放置しない。



充電中にバッテリーを破損させることがあります。水が入ったと思われる場合は、必ず販売店で点検を受けてからご使用ください。

充電器の電源コードの取り扱いは、以下のことを守る。

- 電源コードを束ねたり、丸めたりしたままで充電しない。
- 電源コードを傷つけたり、加工するなどしない。
- 電源コードを無理に曲げる、ねじる、引っ張るなどしない。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、クギなどで固定したりしない。
- 電源コードが損傷（断線や芯線の露出など）している状態で使用しない。
- ガソリンなどの引火物の周辺で充電しない。

火災・感電の原因となります。異常があるときは使用せずに販売店にご相談ください。

PAS専用充電器は他の電気製品などに使用しない。



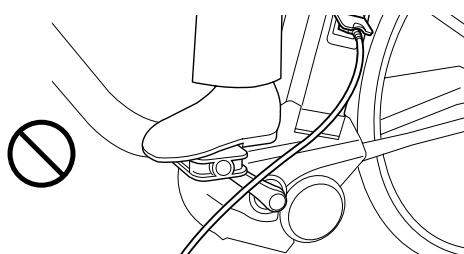
PAS専用充電器はPASのバッテリー充電用に開発された専用品です。たとえ接点の形状が一致しても、他の電気製品などには絶対に使用しないでください。破損や火災の原因になります。

充電中のPAS専用充電器に、長時間、皮膚の同じ場所で触れない。



PAS専用充電器は充電中に発熱し、40~60°Cになる場合があります。充電中のPAS専用充電器に長時間皮膚の同じ場所で触れていると、低温やけどのおそれがあります。

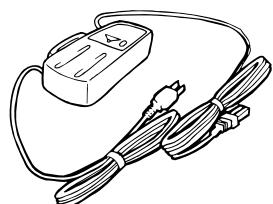
充電中にペダルを回さない。
(バッテリーを取り付けたまま充電するとき)



ペダルにコードがからまり、PAS専用充電器やコード、プラグなどを破損するおそれがあります。

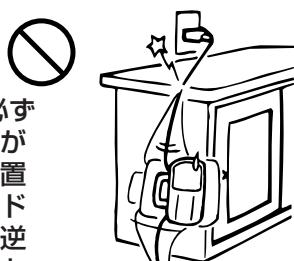
▲注意

必ずPAS専用充電器を使用する。



専用充電器以外は絶対に使用しないでください。

PAS専用充電器は平坦な場所にしっかりと設置する。



PAS専用充電器は必ず平坦な場所にランプが上向きになるよう設置してください。コードが引っぱられたり、逆さままで使用すると故障の原因になります。

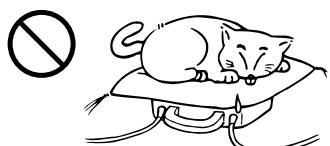
PAS専用充電器は落としたり衝撃をあたえない。



充電ができなくなったり破損するおそれがあります。

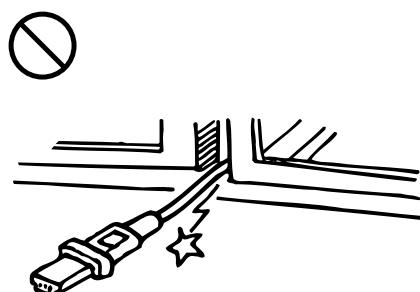
充電中のPAS専用充電器にカバーをしたり上に物を置かない。

また、複数のPAS専用充電器を重ねたり密着させて使用しない。



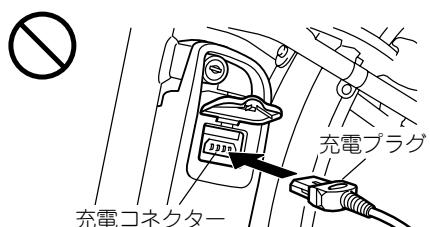
内部が発熱し、充電できなくなることがあります。

充電コードの扱いは充分注意する。



PAS専用充電器が屋内で車両が屋外にある場合、ドアやサッシで充電コードをはさみ込むとコードを傷つける場合があります。

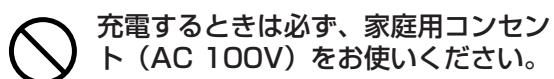
充電プラグや充電コネクターにごみや土や水が付着しないよう注意する。



充電ができなくなったり破損するおそれがあります。

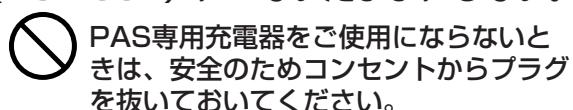
充電プラグや充電コネクターはいつもきれいにしておいてください。

自動車のAC電源等を使用しない。



充電するときは必ず、家庭用コンセント(AC 100V)をお使いください。

PAS専用充電器を家庭用コンセント(AC 100V)につないだままにしない。



PAS専用充電器をご使用にならないときは、安全のためコンセントからプラグを抜いておいてください。

バッテリー取り扱いの注意

必ずお守りください

▲警 告

バッテリー底部の接点にものをつめたり
ショートさせない。



接点部にものをつめると接触不良により使用できなくなることがあります。また、針金などでショートさせると感電または故障のおそれがあります。

バッテリーに水をかけたり、水中に投下しない。



バッテリーに水をかけるとショートし、感電の原因になります。また、水中に投下すると電池機能を失い、使えなくなります。

バッテリーを火中に投げ入れない。



バッテリーを火中に投げ入れると破裂のおそれがあり大変危険です。使用済バッテリーは販売店で必ずリサイクルしましょう。

▲注 意

自動車内に放置しない。



高温になる場所に長時間放置すると、バッテリーの劣化が早くなります。

⚠ 注意

バッテリーを落としたり、強い衝撃を与えない。



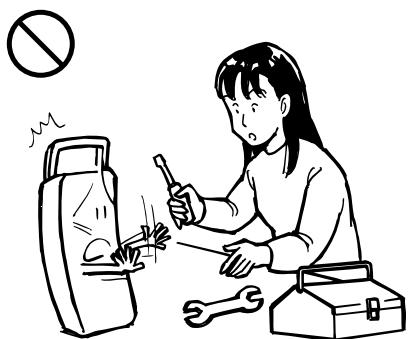
バッテリーが破損したり断線の原因になります。特に階段の角にぶつけたり、運搬時に引きずったりしないでください。

傷ついたバッテリーは使用しない。



万一、バッテリーを落下させたり、ぶつけたりして破損したまま使用すると故障の原因になります。必ず販売店で点検を受けましょう。

バッテリーを分解しない。



バッテリーを分解すると故障の原因になります。分解しないでください。

バッテリーを他の電気製品に使わない。



バッテリーはPAS専用です。他の電気製品に使用すると破損することがあります。PAS以外の用途には絶対に使用しないでください。

充電する場所

下記の諸条件を満たす場所を選んで充電しましょう。

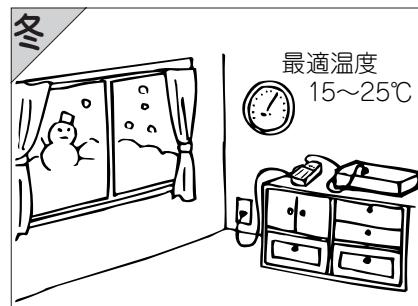
- 平坦で安定がよいところ。
- 雨や水にぬれないところ。
- 直射日光の当たらないところ。
- 風通しがよく、湿気のないところ。
- 幼児やペットなどがいたずらをしないところ。
- 充電中の室温が0~38℃の範囲内の場所。

充電おすすめ 場所の参考例

充電に最適な温度は約15~25℃です。室温が0~38℃の範囲なら充電可能ですが、走行直後のバッテリーは、この温度範囲外にある場合があります。この場合、バッテリー内部温度が適正温度になるまで充電待ちの状態（充電器のランプが緑色でゆっくり点滅する状態）になります。



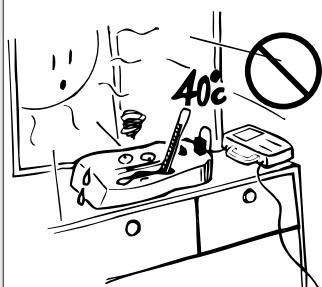
● 日陰ですぐしく、風通しのよい場所



● 夜間でも0℃以下にならないあたたかな場所

充電に適さない 場所、充電方法

夏



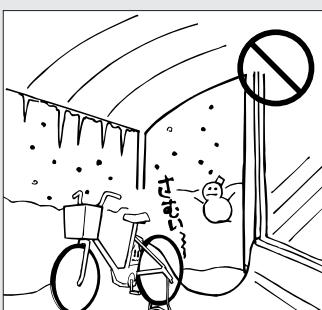
● 直射日光が当たる場所での充電



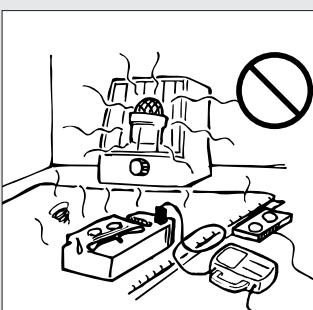
● 走行直後の充電

一旦正常に充電を開始しても、充電途中でバッテリーが規定の温度を越えた時はバッテリー保護のために自動的に充電を中止しますので、充電不足になる場合があります。この場合、メインスイッチの残量ランプは4灯点灯しないことがあります。しばらくバッテリーを冷ましたあと、できるだけすばらしい場所でもう一度充電してください。

冬



● 冬の屋外、または物置などの寒い場所



● ストーブやこたつなどの暖房器具の近くでの充電

充電前には適正温度範囲内であっても深夜の冷え込みなどにより途中で0℃以下になるとバッテリー保護のために自動的に充電を中止し、PAS専用充電器のランプが緑色でゆっくり点滅して知らせます。このようなときはあたたかな場所でもう一度充電をしなおしてください。

バッテリーを充電しましょう！

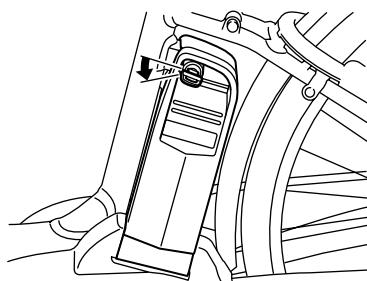
ヤマハ〈PAS〉のバッテリーは車体に取り付けたままでも、また、バッテリーを取り外した状態でも充電ができます。

充電は、お買い求めいただいた車両の専用充電器をご使用ください。

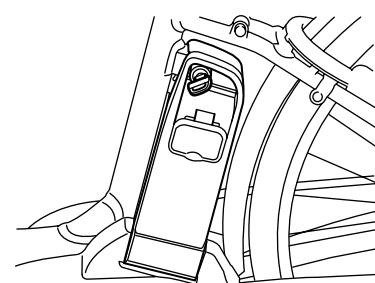
バッテリーを取り外して充電する場合

バッテリーの取り外しかた

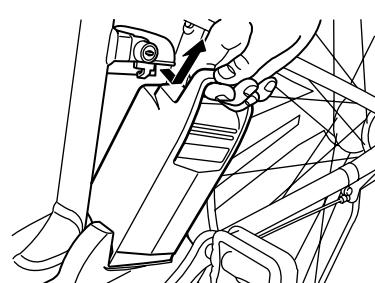
1. 後輪サークルロックを施錠して、キーを取り外します。
(P30)



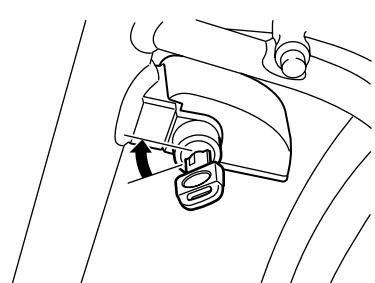
2. バッテリーロックにキーを差して、押し込みながら反時計方向に回します。



3. バッテリーロックが解除されます。



4. バッテリーのグリップを持ち、斜めに倒しながら上へ引き出してバッテリーを取り出します。



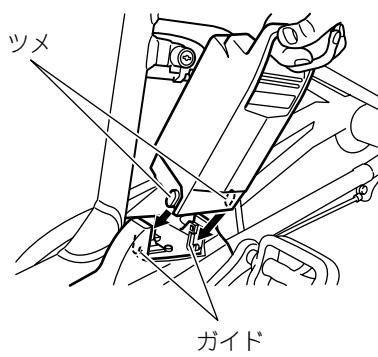
5. バッテリーを取り外した後、キーを押し込みながら時計方向へ回してロックします。

▲注意

ロックした後、キーを忘れずに抜き取ってください。

6. 充電をします。(P19~21)

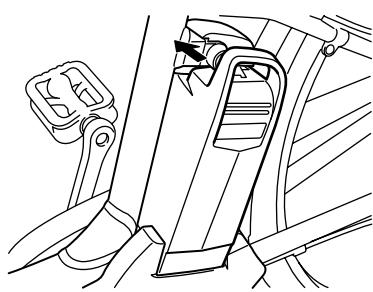
バッテリーの取り付けかた



1.車体側のガイドにバッテリーのツメを合わせながら、ゆっくりとバッテリーを差し込みます。

▲注意

- 車体側のバッテリー装着部にゴミなどが付着していないことを確認してください。
- バッテリー挿入時、指などをはさまないように注意してください。



2.バッテリーの上部を押し込みます。

中央まで入るとカチッと音がしてロックされます。

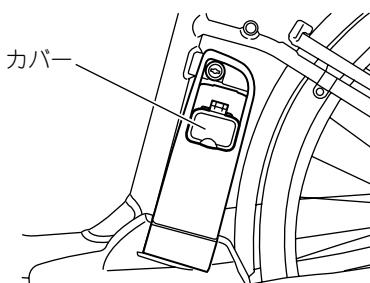
要点

キーをロックに差し込んだままでもバッテリーは取り付けられますが、そのときはバッテリー上部が中央まで入ったら、キーを押しながら時計方向に回してロックし、キーを抜いてください。

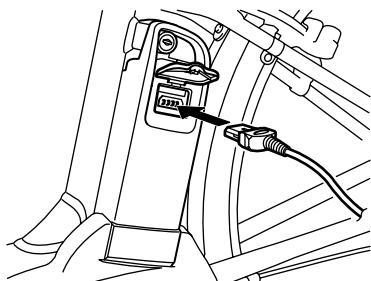
バッテリーを取り付けたまま充電する場合

充電器のつなぎかた

1. バッテリーの充電コネクター部のカバーを開けます。



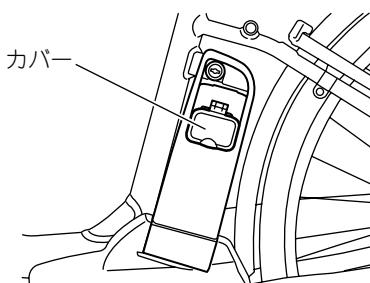
2. 充電器をつないで充電をします。(P19~21)



▲注意

充電中にペダル（クランク）を回したり、PASを移動したりしないでください。充電器のコードがペダル（クランク）などにからまって損傷することがあります。

3. 充電終了後、バッテリーの充電コネクター部カバーが確実に閉まっていることを確認します。



充電のしかた

通常充電・リフレッシュ充電とは・・・

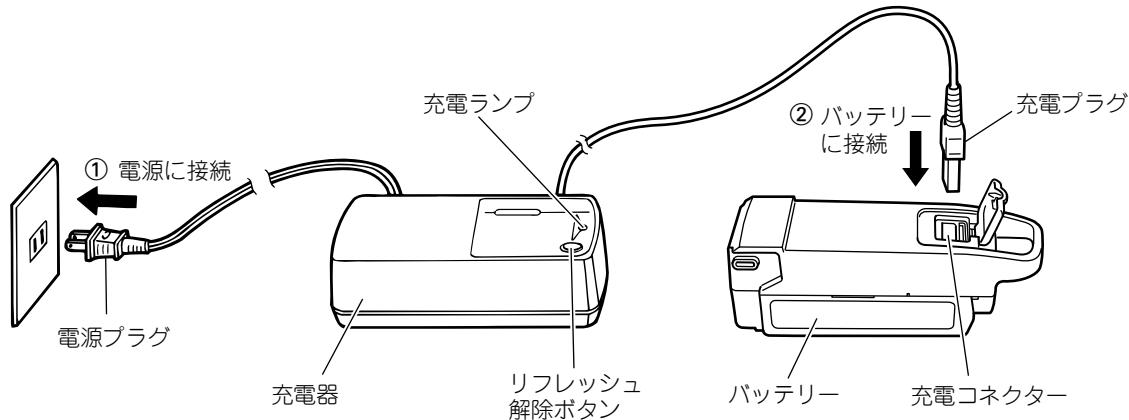
バッテリーを充電するには、通常行う「通常充電」と、バッテリーを回復させながら行う「リフレッシュ充電」(P20) の二つの方法があります。

▲注意

- 「リフレッシュ充電」は、完全放電と充電を自動的に行う充電方法です。ニッケル水素バッテリーは、リフレッシュ充電するとバッテリーの性能を回復させ、走行できる距離の低下を防ぐことができます。
- 最初の充電のときにリフレッシュ充電を行う場合がありますが、故障ではありません。そのままリフレッシュ充電してご使用ください。

充電器のつなぎかた

- ①充電器の電源プラグ → 家庭用のコンセント (100V)
- ②充電器の充電プラグ → バッテリーの充電コネクター



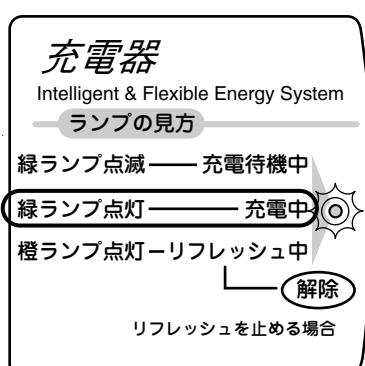
通常充電 → 充電ランプが緑色で点灯します。

充電器を電源とバッテリーに接続するだけで、充電完了まで自動的に通常充電を行います。

緑色で点灯→通常充電中です。

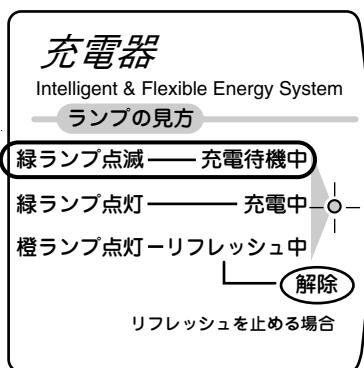
充電が完了すると、ランプが消灯します。

ランプが消灯したら、バッテリーと充電器の接続を取り外してください。



充電待ち → 充電ランプが緑色で点滅します。

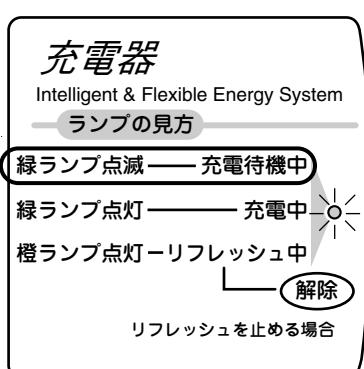
緑色で遅い点滅→充電待機中です。そのままお待ちください。



バッテリー内の温度が0~38°Cの範囲内にない時は、充電ランプが緑色で遅く点滅し、充電待ちの状態をお知らせします。充電できる温度になると充電ランプが緑色の点灯に変わり、自動的に充電が始まります。この場合、通常充電より充電ランプ点滅の時間分だけ充電時間が長くなります。

(気温が充電可能な範囲でも、走行直後はバッテリー温度上昇のため充電できないことがあります。)

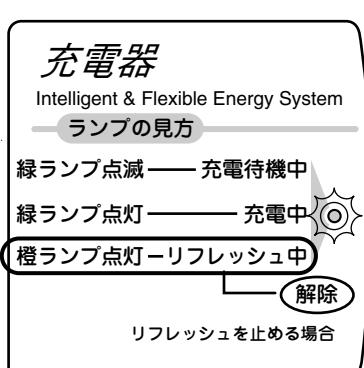
緑色で速い点滅→温度異常で充電を中止しました。



充電待ち（充電ランプが緑色で遅く点滅する状態）が長時間続いたときは、充電ランプが緑色で早い点滅を始め、充電を中止します。バッテリーの温度が0~38°Cの範囲内におさまる頃に、充電プラグを差しなおしてください。

(充電をいったん正常に開始しても、充電中のバッテリー温度上昇により、途中終了する場合があります。この場合、充電ランプは消灯します。)

リフレッシュ充電 → 充電ランプがオレンジ色で点灯します。



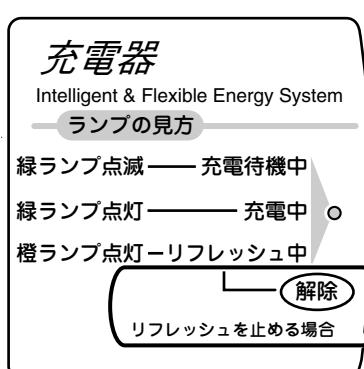
オレンジランプ点灯→リフレッシュ放電中です。

そのまま充電を続けてください。

リフレッシュ放電終了後は、自動的に通常充電を開始します。(P19)

- リフレッシュが必要になった場合、充電器が判断して自動的にリフレッシュ充電が始まります。
- リフレッシュ充電には、最長約7時間かかります。

リフレッシュ充電を中止したいとき

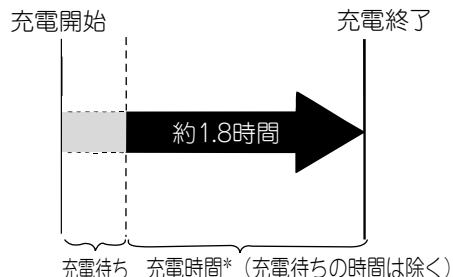


- 時間に余裕がないときなど、リフレッシュ充電を中止したいときは、解除ボタンを3秒以上押すと解除できます。
- 解除されると充電ランプが緑色点灯に変わり、通常充電を開始します。
- 解除したリフレッシュ充電は、次回の充電時に繰り越されます。
- 次回充電時には必ず、リフレッシュ充電を行ってください。
- リフレッシュの解除は続けて行わないでください。

充電時間

●通常充電

充電時間は、充電前の走行状態やバッテリー残量・外気温により異なりますが、残量ランプ点滅まで乗ると約1.8時間です。



*長期放置後の充電、およびリフレッシュ後の充電に要する時間は約1.9時間（最長）です。

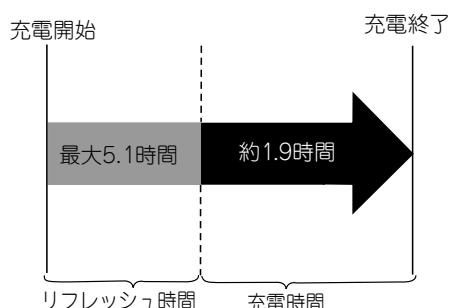
▲警告

充電中異常に気づいたら、ただちに作業を中止してください。

●リフレッシュ充電

リフレッシュ充電の場合は上記充電時間にリフレッシュ時間が加わりますので、時間に余裕のあるときに行ってください。

リフレッシュ充電時間はバッテリー残量により異なりますが、最大約7時間です。



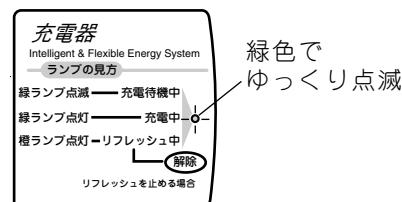
要点

リフレッシュ時間はバッテリーの残量によって異なります。バッテリー残量が少ないとときにリフレッシュすると短時間ですみます。

●充電待ち

バッテリー温度が0℃～38℃の範囲にある場合は、充電待ちはありません。

バッテリー温度が0℃以下あるいは38℃以上のときは、充電器のランプが緑色でゆっくり点滅し充電待ちをします。適正な温度になるとランプが緑色の点灯に変わり、自動的に充電を開始します。



<充電待ち>

要点

- 充電が完了すると充電器の電源は自動的に切れます。使用しない時は安全のためコンセントから電源プラグを抜いて保管してください。
- 充電終了後は、屋外へ放置しないようにしましょう。

PASの乗りかた

エコノミーモードと標準モード

PASは、乗車される方の体力や走行条件（道路、積載状況など）に応じて、モーターによる駆動補助動力を選択することができます。

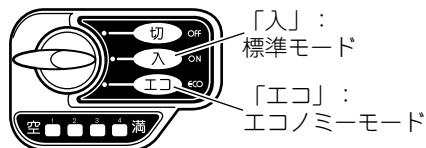
平地を走行するときや、少しでも走行距離を伸ばしたいときは、効果的に走れる「エコノミーモード」で、急な坂道を走行するときやらくに走りたいときは「標準モード」で走行するなど、上手なモードの切り替えで快適な走行が楽しめます。

□ エコノミーモードで常時走行するとバッテリーの消費が少ないため、標準モードで走行した場合より走行できる距離が伸びます。

■ エコノミーモードで走行する場合は、標準モードに比べモーターによる駆動補助動力が減りますので、ペダル踏力が重くなります。

モードの切り替えかた

「標準モード」、「エコノミーモード」の切り替えは、メインスイッチで行います。「標準モード」で走行するときは、メインスイッチを「入」、「エコノミーモード」で走行するときは、メインスイッチを「エコ」にします。



要点

- ペダルに踏力をかけながらメインスイッチを「切」から「入」または「エコ」に切り替えると、アシストが弱くなる場合があります。そのようなときはメインスイッチを入れなおして、ペダルに約2秒間踏力をかけないでください。通常のアシストに戻ります。
- メインスイッチの「入」「エコ」の切り替えは、走行中、停止中にかかわらずいつでもできます。
- メインスイッチの切り替えとバッテリー残量ランプの機能とは関係ありません。

モードの上手な選びかた

<モードの上手な選びかた>

モード	メインスイッチ の位置	適用状況				
		発進	平地	上り坂	下り坂	積載時
標準	「入」	○	○	○	○	○
エコノミー	「エコ」	△	○	△	○	△

左表を参考にしながら、体力や走行条件に応じて、モードを選んでください。平地や下り坂はエコノミーモードで走行しますと、バッテリーの消費が少ないので、1回の充電で走行できる距離が伸びます。

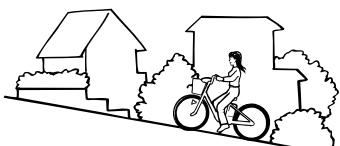
おすすめ モードの参考例

○：効果的な走行ができる、おすすめモードです。

△：変速レバーのシフト位置を標準モードの場合より軽い位置にして走行すれば、ペダル踏力を軽減でき、効果的な走行ができます。

標準モード

坂道だって標準モードなら大丈夫。



体力の消耗を少なくして
らくに乗りたいときは、
標準モード。

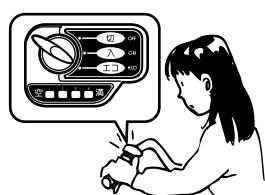


エコノミーモード

できるだけ長い距離を走りたいときは、平地や下り坂はエコノミーモード。



サイクリング気分で運動をかねて乗りたいときは、エコノミーモード。



1充電あたりの走行距離

一般路走行 : 27km

*標準モードで走行したときの平均的な数値を示したものです。

PASが1回の充電で走行できる距離は、走りかたや道路状況など*により異なります。

*発進・停止の回数、車載重量、坂の勾配、路面の状態、風向き、風速、気温、充電状態、バッテリーの性能低下、タイヤの空気圧低下など。

<1充電あたりの走行距離>

走りかた	走行距離				走行条件
	10km	20km	30km	40km	
一般路走行パターン 					一般路走行パターンを連続して走行した場合 [勾配3.5% (2°) の上り坂を変速ギヤ<2>で、その他を変速ギヤ<3>で走行した場合]
平坦路 					平坦路を速度15km/h、発進停止無しで連続して走行した場合 [変速ギヤ<3>]
平坦路発進・停止 					平坦路を速度15km/hで、300m毎に発進・停止した場合 [変速ギヤ<3>]
坂道 					勾配3.5% (2°) の坂道を速度10km/hで、連続して走行した場合 [変速ギヤ<2>]
きつい坂道 					勾配7.0% (4°) の坂道を速度10km/hで、連続して走行した場合 [変速ギヤ<1>]

*バッテリー新品、常温25°C、車載重量（乗員および荷物を合計した重量）60kg、平滑乾燥路面、無風、無点灯状態で、標準モードにして走行したときの弊社データです。

*エコノミーモードで常時走行すると、標準モードで走行した場合より、走行できる距離が伸びます。

*バッテリーの特性上、気温の低下（バッテリー温度の低下）により、走行できる距離が短くなったり、アシスト力が低下する場合があります。この場合、気温が上昇することによって、バッテリーの性能は回復します。

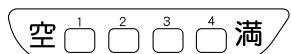
*充電回数の増加に従い、1充電あたりの走行距離は短くなります。

*充電回数が少なくとも、長期間（1年半～2年間）の使用により、1回の充電で走行できる距離は新車時の半分程度になる場合があります。

*ペダルを踏み込む際に力が必要な乗りかたほど、バッテリーは早く消耗します。

バッテリー残量の目安

メインスイッチを「入」または「エコ」にすると、バッテリー残量ランプの4つのランプが同時に約1.5秒間点灯し、その後バッテリーの放電量に応じて残量の目安を表示します。



バッテリー残量ランプ

バッテリー残量ランプは走行によってバッテリーが放電されると下図のように変化し、バッテリー残量の目安を6段階に表示します。

※保護フィルムをはがしてご使用ください。

＜バッテリー残量ランプの表示とバッテリー残量の目安＞

※バッテリー残量ランプはバッテリーの残量やアシスト走行できる距離の目安を表示します。

バッテリー残量ランプの表示	バッテリー残量	目 安
空 満 4灯	100~75%	アシスト走行できます 満充電からメインスイッチを「入」または「エコ」のまま連続走行すると1灯ずつ点灯数が減ります。
空 満 3灯	74~50%	
空 満 2灯	49~25%	
空 満 1灯	24~10%	
空 満 遅い点滅（1灯） <0.5秒毎>	9~1%	充電時期のお知らせ バッテリー残量が残りわずかです。そろそろ充電しましょう。 ※まだしばらく（平坦路約2km）はアシスト走行できます。
空 満 速い点滅（1灯） <0.2秒毎>	~0%	アシスト走行停止 バッテリー残量がなくなりました。メインスイッチを「切」にして走行し早めに充電してください。 ※PASのアシストは停止されますが、自転車として走行することができます。

▲注意

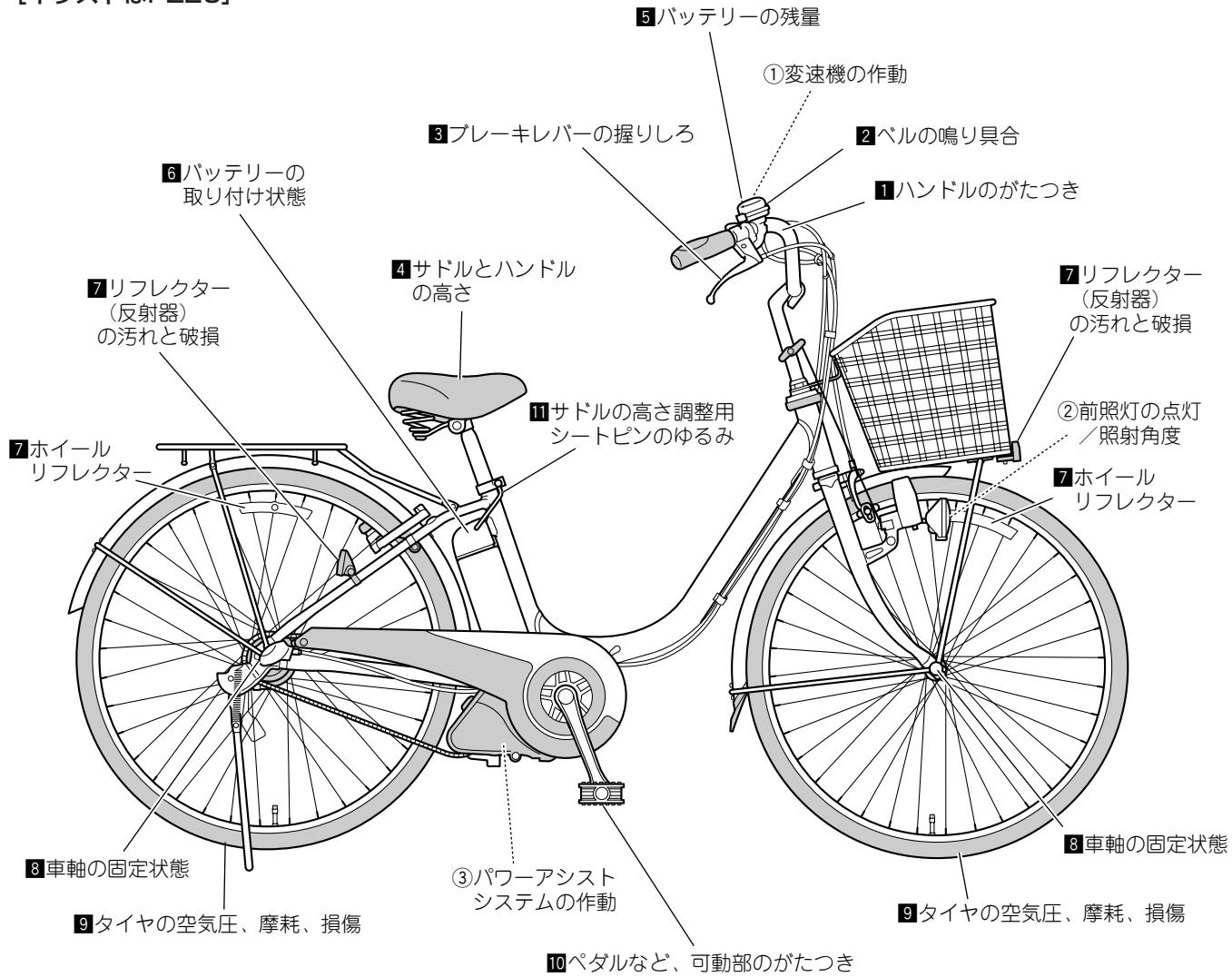
バッテリー残量ランプはPASシステムのチェックも兼ねています。メインスイッチを「入」または「エコ」にしたとき、PASシステムに異常があれば、4灯同時に点滅して【異常表示（ダイアグ表示）】します。異常表示の場合は販売店にご相談ください。このときはアシスト走行はできませんが、自転車としての走行はできます。

乗車前点検

要 点

- メインスイッチを「切」にして点検してください。
- 詳しい点検のしかたは、P26を参照してください。

[イラストはPZ26]



●乗車する前に点検するポイント●

以下のポイントを中心に、お乗りいただく前に必ず乗車前点検を実施しましょう。

●走行する前に確認する項目

① ハンドルのがたつき

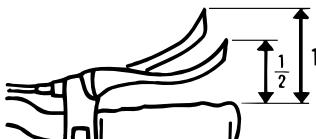
ハンドルを上下左右／前後方向に動かし、がたつきがないかを確認します。また、ハンドルが前輪と直角になっているかを確認します。

② ベルの鳴り具合

ベルが鳴るか、動きが悪くないかを確認します。

③ ブレーキレバーの握りしろ

前後のブレーキレバーを握って、レバーとハンドルグリップとの間が約1/2でブレーキがきくかを確認します。



④ サドルとハンドルの高さ

サドルの高さは、またがって両足のつま先が地面につくくらいが適切です。

ハンドルの高さは、またがってハンドルバーを握ったときに軽くひじが曲がるくらいが適切です。

⑤ バッテリーの残量

メインスイッチを「入」または「エコ」にして残量ランプで目安を確認します。

⑥ バッテリーの取り付け状態

バッテリーが確実に固定されているかを確認します。

⑦ リフレクター（反射器）／ホイールリフレクターの汚れと破損

リフレクターに汚れや破損がないかを点検します。汚れは拭き取ります。また、損傷している場合は交換してください。(そのときはヤマハ純正部品を使ってください)

⑧ 車軸の固定状態

前後車軸に、ゆるみやがたつきがないかを確認します。

⑨ タイヤの空気圧、摩耗、損傷

タイヤの空気圧が適正であるかを確認します。空気圧は接地面の長さで確認することができます。適正な空気圧でないとパンクや車体各部のがたつきの原因になります。また、摩耗していないか、異物や釘などがささっていないかを確認します。



接地面の長さ(L)：130～140mm (測定時の参考条件：乗員体重60kg)

適正空気圧	
前輪	300kPa (3.0kg/cm ²)
後輪	300kPa (3.0kg/cm ²)

⑩ ペダルなど、可動部のがたつき

ペダルなど可動部にがたつきがないか、スムーズに回転するかを確認します。がたつきがあるときはボルトなどの増し締めをします。

⑪ サドルの高さ調整用シートピンのゆるみ

シートピンにゆるみがないかを確認します。

●走行してすぐに確認する項目

① 変速機の作動

走行中に変速機が作動しないときや、操作性が悪い場合には販売店にご相談ください。

② 前照灯の点灯／照射角度

前照灯の光軸中心が10m前方の路面部を照らしているか確認します。

もし点灯しない場合は電球の球切れが考えられますので、必ず指定の電球と交換してください。

電球を交換しても点灯しない場合は、販売店にご相談ください。

③ パワーアシストシステムの作動

発進してパワーアシストシステムがしっかりと作動するかを確認します。このときパワーアシストシステムからふだんと異なる音がしたり、煙や異臭など異常を感じた場合は、ただちに乗車をやめて販売店にご相談ください。

▲警告

パワーアシストシステム機構の内部は精密部品で構成されていますので、分解したりしないでください。万一、異常が感じられる場合はすみやかに販売店にご相談ください。

さあ乗りましょう！

乗る前に…

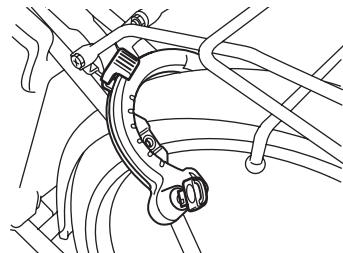
•PASに乗る前は必ず乗車前点検を励行しましょう。
(乗車前点検の点検項目はP25~26をご参照ください。)

1 後輪サークルロックを解除しましょう。(P30)

キーはサークルロックに付けたまま走行します。

▲警告

バッテリーロックのキーは必ず抜いてください。足が当たってケガをするおそれがあります。



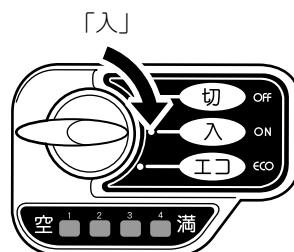
▲注意

走行中に車輪に巻き込まれやすいようなキーholderは付けないでください。

2 ペダルに足をかけないでメインスイッチを「入」または「エコ」にします。

要点

メインスイッチを「切」から「入」または「エコ」にしてすぐに（約2秒以内）走行を開始すると、アシストが弱くなる場合があります。また、走行中にメインスイッチを「切」から「入」または「エコ」にしたときも同様に、アシストが弱くなる場合があります。（いずれも故障ではありません。）ペダルから足を離した状態で、「切」から再度メインスイッチ操作を行い、少し待ってから（約2秒後）走行を開始してください。



3 バッテリー残量ランプの点灯を確認します。(P24)

4 スタンドを上げ、サドルにまたがり、ペダルをゆっくり踏み込みます。

スタンドを上げてからサドルにまたがり、ペダルに片足を乗せ発進の準備をします。走り出す前に前後左右の安全を確かめ、発進の合図をしてからペダルをゆっくり踏み込みます。パワーアシストシステムは踏み込んだ瞬間から作動します。走行中パワーアシストシステム作動時はモーターが回転しているため、モーター音がします。



▲警告

けんけん乗り（片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかた）はしないでください。転倒や接触によるけがのおそれがあります。

▲注意

- 空き地や公園など安全な場所でよく練習し、パワーアシストの特徴に充分に慣れてから一般道路でお乗りください。また、慣れるまでは「エコ」でスタートしましょう。
- パワーアシストシステム作動中に後進すると、重たい場合があります。一旦、ペダルから足を離して数秒間待ってください。通常に後進できます。

要点

こんなときはパワーアシストシステムは作動しません。

- 時速24km以上（変速機が<3>のとき）のスピードで走っているとき



- ペダルをこがないとき
- バッテリー残量がなくなったとき
(バッテリー残量ランプが1灯速い点滅をしてお知らせします。)

- メインスイッチが「入」または「エコ」の状態で5分間以上踏力がかかるなかったとき

※メインスイッチが「入」または「エコ」でも5分間以上ペダルに踏力がかかるない場合、パワーアシストシステムの回路は自動的に切れます（バッテリー残量ランプも消灯します）。復帰させるときは、一旦メインスイッチを「切」にしてから再度スイッチを入れてください。



変速レバーの使いかた

道路状況に合わせて早めに変速し、適切なシフト位置で走行しましょう。

<適切なシフト位置>

道路状況	シフト位置	走行状態
平坦路から、ゆるやかな上り坂。 0~3.5% (0~2°) の勾配	<3>	ペダルがやや重くなり、スピードがでます。
平坦路から、やや急だと感じる上り坂。 3.5~7.0% (2~4°) の勾配	<2>	通常走行時
やや急だと感じる上り坂から、急な上り坂まで。 7.0~10.5% (4~6°) の勾配	<1>	ペダルが軽くなり、上り坂走行に適しています。

変速のしかた

- 走行中にペダルをこぐ足を止めます。
- 変速レバーを押して、シフト位置を切り替えます。

要点

ペダルをこいでいるときは変速レバーを操作しても変速しません。
充分練習し、変速操作になれておきましょう。

▲警告

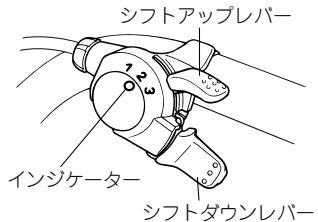
交通が激しくない場所など安全な状況で操作してください。



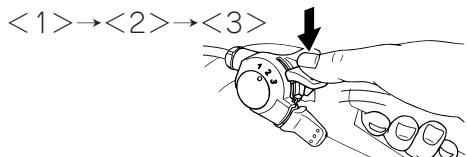
変速レバーの操作は走行中に行いますので、シフト操作に気をとられ前方不注意になるおそれがあります。

変速レバーの使いかた

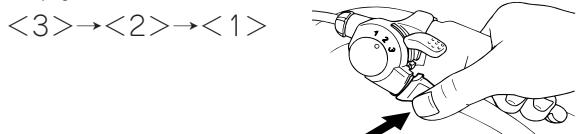
変速レバーはシフトアップ／シフトダウン用にレバーが2本あります。



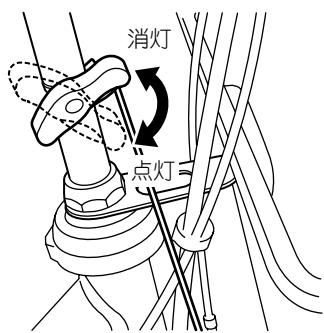
- シフトアップレバーを上から下に押すとシフトアップします。



- シフトダウンレバーを手前から押すとシフトダウンします。



ロッド式ダイナモリモコンレバーの使いかた



前照灯は、ハンドル下側にあるロッド式ダイナモリモコンレバーで点灯、消灯を行います。

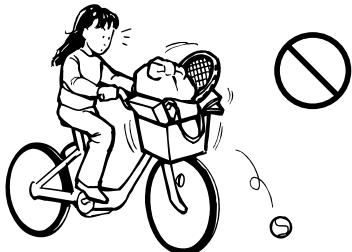
▲注意

ダイナモリモコンレバーに荷物などを掛けないでください。

荷物の積載

荷物の積みすぎには注意しましょう。

PASの最大積載重量（乗員の体重と積載重量の合計）は90kgです。また、フロントバスケットおよびリヤキャリアそれぞれの最大積載重量と積載物の大きさの限度は下表のとおりです。荷物を積みすぎるとバッテリーに過大な負荷をかけるために走行できる距離が短くなります。



最 大 積 載 重 量	フロントバスケット	3kg
積 載 物 の 大きさ限度	リヤキャリア	10kg
幅	リヤキャリアの左右 それぞれ10cm	
長さ	リヤキャリア後端から10cm	
高さ	リヤキャリアから40cm	

▲警 告

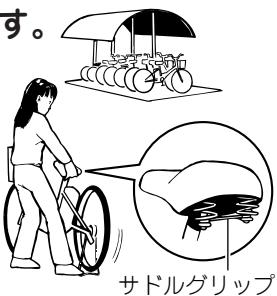
荷物の積みすぎは走行安定性を著しく低下させ危険です。
また、はみ出した荷物は歩行者や自動車などに接触するおそれがあり、危険です。
最大積載重量および積載物の大きさ限度をこえないようにしてください。

駐輪のしかた

1 PASを停車させます。

平坦で安定のよい場所にPASを停車させます。

サドル下のサドルグリップをもってスタンドを立てます。



サドルグリップ

2 メインスイッチを「切」にします。

メインスイッチのつまみを左に回して「切」にします。

▲注 意

- 走行直後のブレーキドラム部に手を触れないでください。
ブレーキを頻繁に使用した場合、ドラム部が高温になることがあります。
- スタンドを立てたら、必ずロックレバーをかけてください。

要 点

PASは前進に比べ後進時はわずかに重くなります。

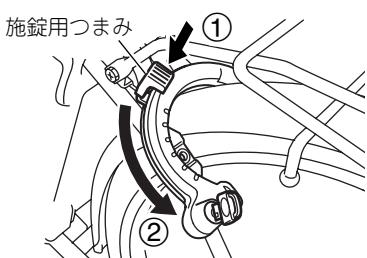
3 後輪サークルロックをかけましょう。

駐輪時や保管時には、盗難予防のために必ず後輪サークルロックをかけましょう。

■かけかた

施錠用つまみのノブを①の矢印の方向へ押して、そのまま②の方向へ「カチッ」と音がするまで押し下げ、ロックします。

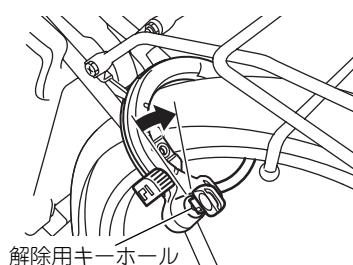
施錠後はキーを抜き取りましょう。



■解除のしかた

キーを解除用のキーホールに差し込み、ロックが解除されるまで右にひねります。

キーは付けたまま走行します。



▲注 意

駐輪は必ず決められた場所へ

- 駐輪場所は平坦で安定がよく、歩行者や自動車の迷惑にならない場所を選びましょう。
- 駐輪禁止の場所には停めないでください。
- 駐輪時は盗難予防のため、必ず後輪サークルロックをかける習慣をつけましょう。



- 予備キーは紛失しないように別の場所に大切に保管してください。

メインスイッチは「切」にしてください

- メインスイッチの切り忘れは、バッテリーの放電をはやめます。このため次回乗車時に充電不足によりパワーアシストシステムが作動しなくなることがあります。

パーキングストッパーの使いかた

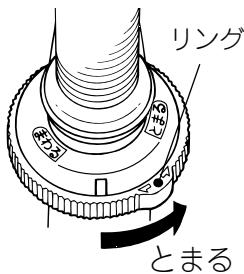
パーキングストッパーを使い、ハンドルを半固定状態にします。

▲警告

- 乗車の時には、リングを「まわる」の方向（時計方向）につき当たるまで確実に回し、リングの赤い●印がフレーム（車体）の中心と合っている状態で、ハンドルがスムーズに回ることを確認してください。
もし、乗車のときにリングが「まわる」の方向のついたりまで回っていない（「まわる」と「とまる」の間にある）場合は走行中にハンドルがスムーズに回らなくなることがあります。危険です。
- 走行中は、絶対にリングを「とまる」の方向に回さないでください。
- リング操作は充分になれるまで練習してください。不明な点は、お買い上げの販売店にご相談ください。

■パーキングストッパーの使いかた

リングを「とまる」の方向（反時計方向）につき当たるまで回してください。
ハンドルは半固定状態となります。（そのまま無理に回すと「パチッパチッ」と音がします）



▲警告

この状態での走行は大変危険です。絶対におやめください。

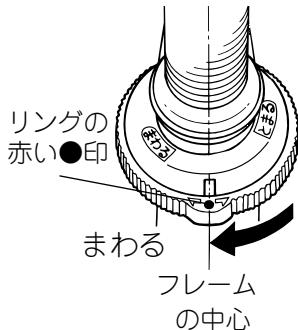
要点

リングを「とまる」の方向へつき当たるまで回してもハンドルが半固定状態とならないときは、ハンドルを少し動かしながらリングを回してください。

■パーキングストッパーの解除のしかた

リングを「まわる」の方向（時計方向）につき当たるまで回してください。
ハンドルの半固定状態は解除されスムーズに回転します。

リングの赤い●印がフレーム（車体）の中心と合っている状態で、ハンドルがスムーズに回ることを確認してください。



お手入れのしかた

●バッテリー部のお手入れ

バッテリー部の汚れはかわいた布でふき取るようになります。水ぶきは絶対にしないでください。



▲警 告

底部の接点をヤスリで磨いたり、針金などでさうじしないでください。破損または感電のおそれがあります。

●樹脂カバー類のお手入れ

樹脂製のカバー類は、水を含ませ固く絞ったタオルなどで汚れを取り除きます。

▲注 意

ガソリン、灯油、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などを付着させないでください。ヒビ割れなどの原因になります。

要 点

水洗いについて

PASは日常防水性能を備えていますが、スチーム洗車をしたり水道ホースでの洗車など直接圧力のかかるこことはしないでください。直接パワーアシストシステム部やバッテリー部にかけると、すきまからパワーアシストシステム構成部品の内部に水が入り、機能を損ねることがあります。万一、パワーアシストシステム機構が水に浸かった場合は、販売店で点検を受けるようにしましょう。

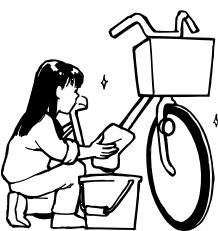


▲警 告

ブレーキの制動面やタイヤ、リムには注油しないでください。ブレーキが効かなくなり、衝突・けがのおそれがあります。

●フレームなどの金属塗装部のお手入れ

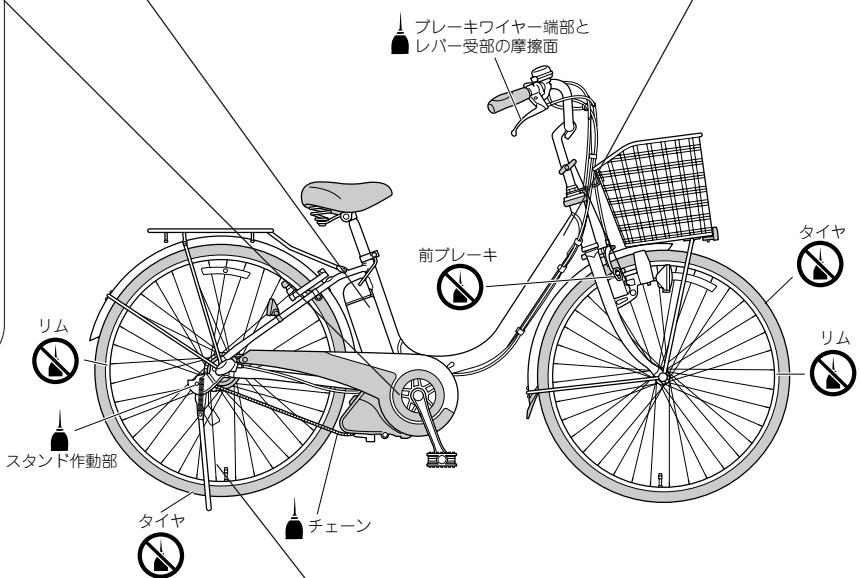
金属製の塗装された部分は、汚れをしっかり取り除き乾いたタオルに少量のワックスをつけてみがきます。油は光沢をなくしますので、塗装部にはつけないでください。



▲注 意

タイヤ・ブレーキシューなどのゴム類には絶対にワックスを付着させないでください。(ワックスなどでタイヤをみがくとヒビ割れの原因となります。)

[イラストはPZ26]



マークは注油場所を示します。



マークは注油禁止場所を示します。

●金属部のお手入れ

スポークなどの金属部は、防錆剤（ヤマハ防錆潤滑剤ME-180など）を布に吹きつけてふきます。

▲警 告

ブレーキの制動面やタイヤ、リムなどに防錆剤やワックスなどの油脂類が付着しないようにご注意ください。ブレーキのききが悪くなります。

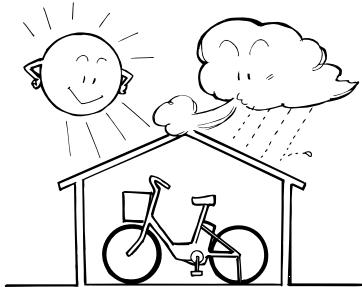
▲注 意

注油は決められた場所に少量を注油します。多すぎると、ホコリを付着させ、故障の原因になりますのでご注意ください。

保管のしかた

1. 保管場所は慎重に選びましょう。

- 平坦で安定のよいところ
- 風通しがよく、湿気のないところ
- 雨つゆや直射日光が当たらないところ



2. メインスイッチを「切」にしましょう。

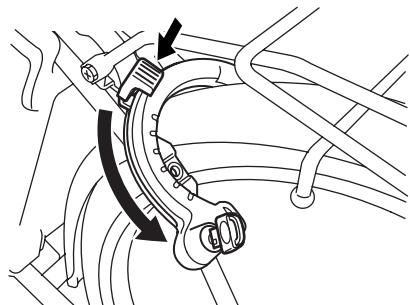
▲注意

メインスイッチの切り忘れは、バッテリーの放電をやめます。このため次回乗車時に充電不足によりパワーアシストシステムが作動しなくなることがあります。

3. 後輪サークルロックをかけましょう。

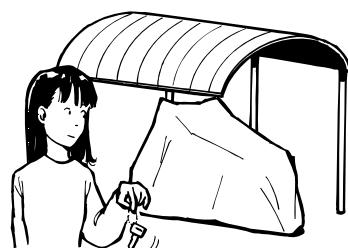
保管するときは、いたずらや盗難を予防するために必ず後輪サークルロックをかけましょう。(P30)

後輪サークルロック



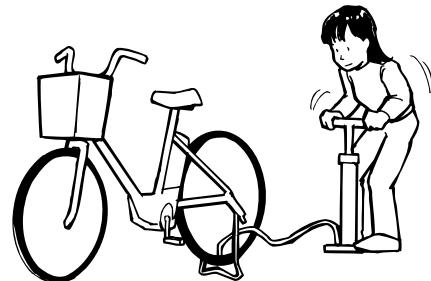
● PASにカバーをかけましょう。

保管するときは、ほこりや水を防ぐために専用サイクルカバー(別売)をかけましょう。



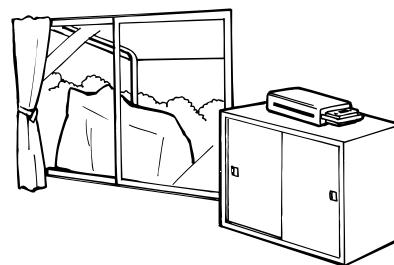
● タイヤに充分な空気を入れましょう。

保管するときは、タイヤの傷みを防ぐために充分な空気を入れましょう。



●長期間保管するとき

長期間(1か月以上)にわたりPASを使用しないときは、メインスイッチを「切」にして保管します。このときバッテリーは、残量ランプが1灯～2灯の状態で保管されることをお奨めします。バッテリーを外して保管するときは、室内の平坦で、すずしいところや湿気のない場所を選びましょう。このときPAS本体のバッテリー装着部にほこりなどが付着しないよう、サイクルカバー(別売)をかけましょう。



●長期間保管して再使用するとき

長期間(1か月以上)保管して再び使用する場合は、使用する前日に必ず充電をしてから乗るようにしましょう。(通常の充電よりも若干時間がかかる場合があります。)

また6か月以上保管して再び使用する場合は、販売店で点検・整備(有料)をお受けになってからご使用ください。

定期点検／普通自転車点検整備済みTSマークについて

定期点検

点検・整備は販売店で行ってください。

●2か月目（初回）点検

お買いあげいただいたPASは工場で厳密な検査を施した後に出荷されていますが、まれに使用後1～2か月の間に、ボルトなどのゆるみが生じることがあります。この期間内に、お買いあげいただいた販売店にPASと保証書／点検・整備の記録をお持ちの上、点検・整備を受けてください。お買いあげいただいた販売店での実施に限り無料です。（使用状況などにより部品の交換が必要な場合は、有料となることがありますので、あらかじめご相談ください。）

●定期点検

いつまでもPASを大切にお乗りいただくために、お買いあげいただいたてから6か月目以降は、半年ごとに定期点検を受けましょう（有料）。消耗した部品や、異常箇所をそのままにしてお乗りになると大変に危険です。定期点検は人間でいえばいわば人間ドックのようなものです。定期的に点検することで、PASの優れた性能をいつまでも引きだしていただけます。また、定期点検を実施していない場合には巻末の保証の適用をうけられないことがありますので、あらかじめご了承ください。

▲警 告

ブレーキワイヤーについては、異常がなくても2年に1回は交換してください。

普通自転車点検整備済みTSマークについて



自転車安全整備店で点検整備を行い、基準に適合した安全な自転車にこのマークを貼ることができます。（有償です。）

このマークには、傷害保険と賠償責任保険が付帯されており、万一の事故の際に利用することができます。

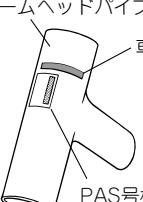
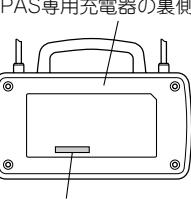
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

保証制度／基準適合標章（TSマーク）

保証制度

お買いあげいただきましたヤマハ（PAS）を構成する純正部品に、材質または製造上による不都合が生じた場合は、消耗部品を除き保証書に示す条件に従い、その部品の交換または補修により無料で修理を行います。詳しくは保証書をご覧ください。

各番号の記載場所

フレームヘッドパイプ  車体番号 PAS号機番号	車体番号 フレームヘッドパイプの正面に打刻してあります。防犯登録には、この番号をお使いください。 PAS号機番号 フレームヘッドパイプに貼付してあります。	PAS専用充電器の裏側  PAS専用充電器ロット番号	PAS専用充電器 ロット番号 充電器の裏側に記載してあります。
--	--	--	---

基準適合標章（TSマーク）

基準適合標章について



- このマークは、道路交通法の規定に適合し、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にのみ表示されるもので、安心して自転車としてご利用頂ける証明です。

BAAマークについて

「社団法人自転車協会から利用者の皆様へのお知らせ」

“BAAマークが貼付された自転車は、安全で長持ちする自転車を目標に、社団法人自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。万が一製造上の欠陥で事故が発生した場合は、製造・輸入事業者の責任で補償致します。当会は直接利用者の皆様への補償を致すものではありません。”

社団法人 自転車協会

ヤマハPAS盗難保険について

「ヤマハPAS」はお客様のご負担なしで、全車盗難保険が付帯されています。「ヤマハPAS」の新車をお買い上げいただいたお客様を対象に、ご購入日より2年以内に盗難事故にあわれた場合、盗難車のメーカー希望小売価格の30%をご負担いただくことで、盗難された車両と同タイプの新車をお求めいただけます。詳細は下記の通りです。

ご購入時、取扱説明書に添付されている「お客様登録票」(盗難保険カード)をもれなくご記入の上、7日以内に郵便ポストに投函してください。ご返送いただかない場合、盗難保険の補償が受けられません。

なお、保険証書等は発行されませんので、[保証書]を大切に保管してください。盗難事故発生時に必要な書類となります。

1. 盗難保険の補償期間

お買い上げの日（保証書記載日）から2年後の応当日の24時まで（「ご継続」はございません）

2. 盗難保険の補償内容

①PASが盗難にあった場合

所定の自己負担額（充電器を除くメーカー希望小売価格の30%）をご負担いただくことで同型の新車を提供します。ただし部品、別売付属品は対象外となります。（同型車が販売中止などの場合、同等品になる場合があります。）

②PASの盗難車が発見された際に、車両に損害が生じていた場合

修理費×87%－所定の自己負担額（充電器を除くメーカー希望小売価格の30%）をお支払いします。

◆お客様には修理費×13%+所定の自己負担額（充電器を除くメーカー希望小売価格の30%）をご負担いただきます。

◆修理費がメーカー希望小売価格（本体）を上回る場合には、上記①と同様の取り扱いとなります。

3. 盗難事故にあわれた場合の対応（盗難保険手続き要領）

①すみやかに最寄りの警察署へ「盗難届」をご提出ください。

②お買い上げいただいた販売店までご連絡ください。

※盗難発生の日から30日以内にご連絡いただかない場合、保険が適用されないことがありますのでご注意ください。

③盗難保険手続きに必要な以下の書類を添えて、お買い上げいただいた販売店までご提出ください。

【提出書類】

●届出警察署発行の盗難証明書、または届出日・届出警察署・盗難日・受理番号を記載した書面

●盗難車の保証書（写しでも可）

●盗難保険手続き依頼書（販売店からご案内いたします）

●その他必要書類

※書類が到着後、調査期間として約1ヶ月かかることがありますのでご了承ください。

4. 盗難車の所有権

「盗難車が発見された場合、その所有権は保険会社に帰属すること」に同意いただいた上で、お手続きください。

5. 盗難保険が適用されない主な場合

①提出書類が全てそろわない場合。

②部品等、本体の一部のみに生じた盗難による損害。

③車両所有者の故意、重大な過失、所有者の親族・使用人などによる盗取。（加担した場合を含む）

④警察が盗難としての届出を受理しない場合。

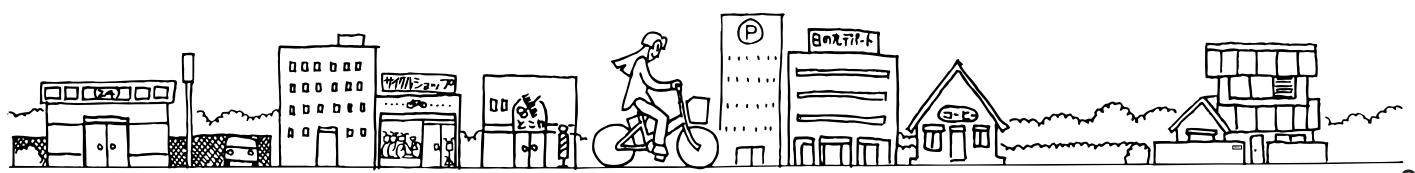
⑤地震、風水害、火災、暴動に起因して発生した盗難事故など。

*なお、上記は保険の概要を記載したものであり、実際の保険金支払いに関しては盗難保険普通保険約款および特約条項に従います。詳しくは、下記引受保険会社または取扱代理店にご照会ください。

*本商品は損害保険契約者保護機構の補償制度対象外であり、引受保険会社の破綻時の欠損状況により、保険金が減額、または保険金の支払いが一定期間凍結されることがあります。

【引受保険会社 三井住友海上火災保険株式会社】

【取扱代理店 ヤマハ保険サービス株式会社】



もしもこんなときは

パワーアシストシステム

症 状	チ ケ ッ ク	対 応
ペダルが重い。	メインスイッチは「入」または「エコ」になっていますか？	メインスイッチを「入」または「エコ」にしてください。(P27)
	バッテリーは入っていますか？	充電済のバッテリーを入れてください。(P17)
	充電はしてありますか？	充電をしてください。(P16~21)
	メインスイッチが「入」または「エコ」で踏力をかけない状態が5分間以上続いていませんか？	メインスイッチを「切」にしてからもう一度「入」または「エコ」にしてください。
	パンクしていませんか？	パンクの修理をしてください。▶販売店にご相談ください。
走行中にパワーアシストシステムが作動したり切れたりする。	バッテリーロックが確実にロックされていますか？	バッテリーロックが確実にされているか確認してください。(P17) ↓ バッテリーロックが確実にされていても同じ症状のときは、バッテリー端子や配線のゆるみが考えられます。▶販売店にご相談ください。 メインスイッチを「切」にして、通常の自転車として走行できます。
パワーアシストシステムからガーガー、ガリガリなどの異音がする。		パワーアシストシステム内部への異物の混入やグリース切れが考えられます。▶販売店にご相談ください。
パワーアシストシステムから煙や異臭がする。		パワーアシストシステム内部のトラブル▶販売店にご相談ください。
バッテリー残量ランプが4灯速く点滅する。		エラー信号またはパワーアシストシステム内部のトラブルが考えられます。 ↓ メインスイッチを「入」または「エコ」にしたまま、5分間放置してください。自動的にバッテリー残量ランプは消灯します。(P28) ↓ 一旦メインスイッチを「切」にしたあと、再度メインスイッチを「入」または「エコ」にします。▶回復しない場合は販売店にご相談ください。 メインスイッチを「切」にして、通常の自転車として走行できます。
アシストはするが、バッテリー残量ランプが全部消灯している。	車両のバッテリー接続端子が汚れていますか？	バッテリーを取り外し、車両側の端子を乾いた布や綿棒などで清掃後、もう一度バッテリーを取り付けてください。▶回復しない場合は販売店にご相談ください。
航続距離が短くなった。	充分に充電が行われていますか？	満充電になるまで充電してください。(P10、15~21)
	温度が低いところで使用していませんか？	気温が暖かくなると回復します。(P10)
	リフレッシュ充電を解除していませんか？	充電器が橙色点灯してもそのまま充電を続けてください。(P19~21)
	バッテリーの寿命	バッテリーを交換してください。(P10)

PAS専用充電器

症 状	チ ケ ッ ク	対 応
充電できない。	電源プラグや充電プラグはしっかりと接続されていますか？	もう一度接続をやり直して充電してください。(P16~P19) ↓ それでも作動しない場合は、充電器の故障が考えられます。 →販売店にご相談ください。
	充電器のランプは点灯していますか？	充電方法を確認して、もう一度充電してください。(P19、P20) ↓ それでも作動しない場合は、充電器の故障が考えられます。 →販売店にご相談ください。
充電したが、メインスマートイッチの残量ランプが4灯点灯しない。	走行直後など、バッテリーの温度が高い状態で充電を開始していませんか？	場所を変えるなどして充電可能な温度(0°C~38°C)の場所で、もう一度充電してください。(P15、P20) →回復しない場合は販売店にご相談ください。
充電器のランプが緑色でゆっくり点滅する。	故障ではありません。	充電待ちの状態です。そのままお待ちください。(P20) しばらくするとランプが緑色点灯に変わり、通常充電を行います。
充電器のランプが緑色で速い点滅をする。	充電待ちの状態が長時間続いていませんか？	場所を変えるなどして充電可能な温度(0°C~38°C)の場所で、もう一度充電してください。(P20)
充電器のランプが橙色点滅または赤色点滅する。	充電器プラグ接続端子が汚れていますか？	乾いた布や綿棒などで清掃後、もう一度充電してください。 →回復しない場合は販売店にご相談ください。
充電器のランプが赤色点灯する。	充電器またはバッテリーポックス内の回路異常です。	電源プラグと充電プラグを抜き、ただちに使用を中止してください。 →販売店にご相談ください。
充電器から異音や異臭、煙ができる。		電源プラグと充電プラグを抜き、ただちに使用を中止してください。 →販売店にご相談ください。
充電器が熱くなる。	充電中は多少の熱を持ちます。 (約40~60°Cになる場合がありますが、故障ではありません。)	高温の場合は異常が考えられますので、電源プラグと充電プラグを抜いて、ただちに使用を中止してください。 →販売店にご相談ください。

製品仕様

諸 元		26インチ PZ26	24インチ PZ24
寸法	全長	1,875mm	1,775mm
	全幅	560mm	
	サドル高	735~885mm	
	軸間距離	1,150mm	1,110mm
	タイヤサイズ	26×1 3/8	24×1 3/8
車両重量		22.0kg	21.6kg
性能	補助速度範囲 (変速機が〈3〉のとき)	0km/h以上~15km/h未満	
	遙滅補助	15km/h以上~24km/h未満	
	1充電あたりの走行距離	27km*	
原動機	形 式	ブラシレスDC式	
	定格出力	240W	
補 助 力 制 御 方 式		踏力比例制御式	
蓄電池	形 式	ニッケル水素電池、4/3FAセル	
	容量(5時間率)	1.2V×20(24V)、2.8Ah	
充電器	形 式	スイッチング・レギュレーター式/AC100V	
	充電時間	リフレッシュ機能付、約1.8時間**	
変速機方式		リヤハブ、内装3段	
駆動方式		チェーン式	
制動装置	前	サイドプル式キャリパーブレーキ	
	後	内拵式ローラーブレーキ	
照 明 装 置		ダイナモ式前照灯	

* 一般路走行パターンで走行した場合<バッテリー新品、常温25℃、車載重量（乗員および荷物を合計した重量）60kg、平滑乾燥路面、無風、無点灯状態で、メインスイッチを標準モードにして走行したときの弊社データ>
** 長期放置後の充電、およびリフレッシュ後の充電に要する時間は約1.9時間（最長）です。

キー番号記入欄 • キーの作成については、ご購入店にご相談ください。



サービスの実施
お買いあげいただいた販売店が
点検・修理をはじめサービスの
ご相談など、いつまでも親切に
お受けいたします。

あなたのヤマハバスショップ



ヤマハ発動機販売株式会社
〒438-0016 静岡県磐田市岩井 2000-1

再生紙を使用しています。
05.8×1